

1-5

個別対応の行事計画の立案、実施

お花見の実施計画の見直し

個別対応

行事計画の見直し

社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホーム 江東ホーム

介護職員 中屋敷妙美

東京都江東区東陽2-1-2

共同研究者：介護職員 二瓶貴行・長谷川洋次

生活相談員 江田和彦

TEL 03-3647-5081

E-mail : koutouhome@bz01.plala.or.jp

FAX 03-3647-5407

URL : <http://www.asokakai.net/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

昭和62年開設以来、「病める人、悩める人とともに歩む」という法人理念のもと利用者様に寄り添い、「安心と自由のある生活」を送ることができる様に職員一同、心も身体も健康に暮らすことができる生活を支援しております。関連施設として短期入所生活介護、在宅サービスセンター、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターを併設しております。

〈取り組んだ課題〉

- ご利用者のADLが個々に異なるにも関わらず、現状の行事については、実施日の一日に全利用者を対象にした行事を実施している状態であり、個々のニーズに対応したものになっていない。
- 当ホームは3フロアーに分かれて、利用者が生活されているが、行事担当が2名のみであり、各フロアーのご利用者の希望が汲み取りづらい部分がある。又、行事担当職員に計画や実施内容について、依存している部分が多いこともあり、内容自体が毎年同じものになっており、マンネリ化している状況である。

〈具体的な取り組み〉

- 行事担当者を3名に変更することで、各フロアーご利用者の希望に添った内容を提供できるように配慮し、行事自体も施設全体で取り組むことで、様々な視点から、行事計画を立案できるように配慮した。
- 「お花見」の行事の実施にあたり、ご利用者のADLを考慮。「近隣の桜並木散策」「臨海水族館見学・公園内桜並木散策」「水上バス乗船、隅田川桜鑑賞」と3つのコースを立案し、ニーズにあった行事が実施できるように配慮した。
- 桜の開花に左右されないように、「お花見旬間」を設けるとともに、重度のご利用者については、期間内に2回以上、近隣を散策できるような機会を設定できるように配慮した。
- ご家族様にも、行事に参加して頂くことで、普段と違った環境で、ご利用者との触れ合い頂けるように配慮した。

〈活動の成果と評価〉

- お花見旬間を設けることで、桜の開花状況に左右されず、ご利用者全員の方が、満開の桜を鑑賞することができた。
- 3つのコースを用意することで、「昨年より良かった」「これまでで一番良いお花見だった」という声が多く聞かれ、ご利用者のニーズを充足することができた。
- 施設全体で取り組むことで、様々な意見があがり、卒に囚われない実施計画を策定することができた。又、職員全体で「ご利用者の為に何かできるか」という共通認識を持つことができたことに加え、ご利用者の「喜びの生の声」を聞くことができ、職員自体のモチベーションが向上するとともに、新しい取り組みを自分達の手でやり遂げたことということから、スキルアップにもつながった。
- ご家族様に加えて、ボランティアの方々にも協力をして頂いた結果、施設の地域開放にもつながり、施設の行事を地域で支えていくという基盤づくりにもつながった。

〈今後の課題〉

- 今後については、お花見以外の年間行事「夏祭り」「敬老会」「忘年会」についても同様に見直しを図っていくとともに、取り組みを継続できるような体制づくりを検討していく必要がある。